

■知的障害のある子どもたちへの実践事例

子どもたちが自ら読む喜び、知る楽しさを獲得することをめざして —マルチメディアDAISY図書活用推進に向けた試み

島根県立出雲養護学校
桐原夕季・大上奈々・山本恵美子

はじめに

出雲養護学校は本校の他に4つの分教室を持つ、知的障害のある子どもたちのための学校です。小学部から高等部までの児童・生徒が在籍し、肢体不自由や吸引など医療的ケアを必要とする子どもたちも通っています。

〈貴重な図書館資料として〉

2017年4月、本校の校舎増改築に伴い、図書管理システムを導入した念願の図書館がオープンしました。マルチメディアDAISY図書「わいわい文庫」は、本校図書館の貴重な資料のひとつです。さっそく、「わいわい文庫」ポスターを掲示し、マルチメディアDAISY図書は、送っていただいたCDの中から1冊ずつCDに分割して、提供を始めました。

今年度はiPadでの利用ができるようになり、授業で活用される機会も増えてきました。以下、利用の様子を紹介します。

個別学習での活用例

Aさんは、肢体不自由と知的障害を併せ有している小学部6年生。動画を

見たり音楽を聴いたりすることが好きで、絵本にも興味をもっています。自分で意図的に身体を動かすことには困難さがあります。不随意な力が入ることもあります。自分の意思でわずかに指を動かそうとする様子も見られます。

Aさんは、自立活動の時間に『クレヨンのくろくん』を使った学習に取り組みました。この学習のねらいは「自分で手を動かして棒スイッチを押し、タブレットの絵本を読んだり、動画を流して楽器を鳴らしたりする」です。道具・機材は、タブレット端末アプリ「イーリーダー」、iPadタッチャー、棒スイッチを使用しました。

Aさんはこれまで、タブレットでの絵本の読み聞かせの経験はなかったのですが、自動音声の読み聞かせにとっても興味をもち、目を大きく見開いて聞いたり、「もう1回読む？」という教員の問いかけに対して、発声や瞬きで応えたりする様子が見られました。

そこで、棒スイッチとiPadとタッチャーを使って、自分で絵本を読み進められるように設定して取り組むことに

しました。棒スイッチは、児童の微細な動きでも押すことができ、有効でした。不随意的力が入って予期せず押してしまったり、上手くスイッチを押せないもどかしさを発声で訴えたりすることもありましたが、なんとか手を動かそうと集中する姿がうかがえました。



読み上げ機能に耳を傾ける

集団学習での活用例

知的障害を有する中学部1、2年生の男子生徒5名で構成する学習グループでの取り組みです。文字の理解はむずかしいが、音声言語とイラストのマッチングの学習をしている子どもや、ひらがなやカタカナを読むことのできる子ども、小学1～2年生の漢字を読むことのできる子どもなど、実態差のあるグループです。

国語の時間に、大型絵本での読み聞かせを行った後、マルチメディアDAISY図書による『おばけのバーバパパ』など、10分程度の作品を選び、読み聞かせを行っています。

学習のねらいは以下の通りです。

- 教員の読み聞かせによって、絵に注目したり言葉に耳を傾けたりしながら、読書の楽しさを味わう。
- 教員の読み聞かせによって、話の内容を大まかに掴みとる力や、人物の心情を読み取る力をつける。
- 本の文字を目で追ったり、文字と音声言語とを結びつけながら話を聞いたりする。

今回使用した機材は、パソコンとプロジェクターです。画面に映し出される絵本に興味をもち、注目している様子が見られたので、ふだん見ている絵本よりも大きな画面で見やすく、生徒は絵本に引き込まれやすいのではないかと感じました。

また、知っている本や、話の展開がわかっている本だとあまり注目しない生徒も、文字がマーカーでなぞられていく様子を目で追い、文字に注目しながら話を聞いている様子が見られました。

このことから、マルチメディアDAISY図書による読み聞かせを活用することで、絵や話の内容を理解するだけではなく、文字に注目し「読む」という学習に活かすことができるのではないかと感じました。

また、マルチメディアDAISY図書を活用し、毎日違う本の読み聞かせを体験することで、「今日は何のお話？」

「〇〇の本が好きだった。」など読み聞かせに興味をもって取り組む子どもの様子も見られました。

実際に利用したことで、「わいわい文庫」には多くのジャンルの本があり、内容もさまざまあるため、実態に応じた絵本を選択し読み聞かせできることがわかりました。

また、教師の音声とマルチメディアDAISY図書画面を組み合わせることで、子どもの様子に合わせて、やりとりをしながら進めることができて良かったです。マルチメディアDAISY図書に入っている音声を使った読み聞かせだけでなく、さまざまな活用方法が期待できることもわかりました。

より多くの生徒に読書に親しんでもらうため、タブレットを利用して本を読むことができる方法を伝えたり、利用しやすい環境を整えたりしていきたいです。

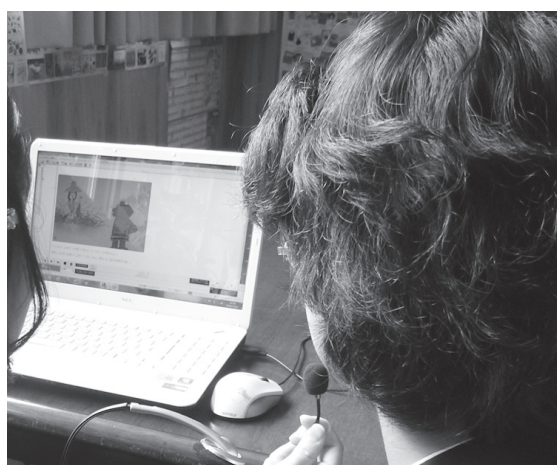


黄色になぞられる文字に興味津々

マルチメディアDAISY図書の作成と提供

本校では学部ごとに読書ボランティアの方を招いたお話会を行っています。今年度のメインのお話は『じごくのそうべい』。生粋の大阪弁で語られた『じごくのそうべい』は聞きどころ満載です。こうした語りで子どもたちがいつでも読めるようにできないだろうかと考え、マルチメディアDAISY図書作成用ソフトウェア「Sigtuna DAR 3 JP」を使って作成に挑戦。語りは、ボランティアの方に協力してもらいました。

また、教員や高等部のお話会で進行を担当した職業コース・地域サービス班の生徒の協力も得ることができ、聴き慣れた声の入ったマルチメディアDAISY図書ができ上がりました。これらをiPadに入れ、教室で開いてもらっています。子どもたちが気軽に読書へ向かうしかけの一つとして紹介していきたいです。



「緊張する!」高等部生徒も録音に協力



ねこがとんとんとん…だれかいるかな？

おわりに

本校では、子どもたちが自由にマルチメディアDAISY図書を手にすることはまだできていませんが、利用の様子を見た周りの教員からは「使ってみたい」という声も挙がるようになりました。環境整備の大切さを改めて感じ、情報担当者と連携して、これからの方策を探っていきたいと思います。

